

予防接種(任意)

以下は町からの助成が受けられる任意の予防接種です。ワクチンの効果と副反応などをよく理解し、本人または保護者の判断で接種してください。

NEW

おたふくかぜ

幼児



おたふくかぜはかかっても軽症の場合が多いですが、重い合併症を引き起こすことがあるので、ワクチン接種が重要です。

対象▶接種日時時点で町に住居登録があり、次のいずれかに該当

- ①満1歳から3歳未満の幼児
- ②年長児

助成回数・金額▶対象①②に対して各々1回(上限5,000円)

※地域通貨コハクペイで支給。

申請期限▶接種日の属する年度の末日まで

申請方法▶医療機関で接種を受けた後に必要書類を添付して電子申請、または保健センターに申請する

必要書類▶領収書など医療機関発行の支払額を証明するもの



町ホームページ

大人の風しん

(妊娠を希望する)成人



抗体をもたない妊婦が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに障がいが起こる場合があります。妊娠を希望している女性やその夫などは予防接種を受けることが重要です。

対象▶接種日時時点で町に住居登録があり、次のいずれかに該当

- ①妊娠を希望する女性とその夫
- ②妊娠をしている女性の夫、および同居の家族

※風しんにかかったことがある、または予防接種を2回受けたことがある人は対象外。

ワクチンの種類と助成額▶①または②のどちらか一方のみ

①風しんワクチン 3,000円(上限1回)

②麻しん風しん混合ワクチン 5,000円(上限1回)

申請期限▶接種日の属する年度の末日まで

申請方法▶必要書類を添えて、原則接種日から1カ月以内に保健センターへ申請する

必要書類▶領収書、接種を受けた人名義の通帳の写し、接種済証(発行された場合のみ)

共通事項

領収書には被接種者氏名、接種日、接種ワクチン名、接種金額、接種医療機関名の記載が必要です

※接種ワクチン名がない場合は診療明細書も必要。



ほうしん 带状疱疹

成人



対象▶接種日時時点で町に住居登録があり、満50才以上の人
ワクチンの種類と助成額▶①または②のどちらか一方のみ

①水痘(生)ワクチン 4,000円(上限1回)

②带状疱疹(不活化)ワクチン 1回10,000円(上限2回)

※②は1回接種後、通常2カ月の間隔をおいて2回目を接種。

【助成金交付までの流れ】

(1) 予診票の交付申請 接種には町指定の予診票が必要です。申請書を保健センターに持参もしくは郵送にて提出するか、電子申請してください。館林市邑楽郡医師会に所属する接種協力医療機関で接種した場合は、接種費用から助成額を引いた額を支払ってください。協力医療機関以外で接種した場合は、接種金額を一旦全額負担してください。

(2) 償還払い交付申請(協力医療機関以外で接種した場合のみ) 予診票(原本)と領収書を持参し、保健センターに申請してください。償還払いで助成金交付を受ける場合は、助成額分のコハクペイを交付します。

※上記②の場合は2回接種を完了してから申請してください。

償還払いの申請期限▶接種日の属する年度の末日まで



町ホームページ

高齢者肺炎球菌

高齢者



肺炎球菌ワクチン接種費助成の対象年齢は、これまでの75歳以上から66歳以上に引き下げられます。

対象▶接種日時時点で町に住居登録があり、次の全てに該当

①66歳以上の人

②今までに高齢者肺炎球菌ワクチンを接種したことがない

助成額▶2,000円(1回のみ)

助成対象期限▶令和7年3月31日㊦

申請期限▶接種日から1カ月以内

申請方法▶必要書類を添付して保健センターに申請する

必要書類▶領収書、申請者名義の預金通帳の写し、接種済証(発行された場合のみ)

予防接種(定期)

以下は定期で実施している予防接種です。指定の医療機関で接種を受けることで公費による補助が受けられます。

二種混合

児童



二種混合ワクチン(ジフテリア・破傷風)は、乳幼児期の三種混合ワクチンに接種した追加免疫として接種します。

対象▶満11~13歳未満の児童

接種期限▶13歳の誕生日の前日まで

接種できる医療機関▶館林市邑楽郡医師会、太田市医師会、足利市医師会管内の個別接種実施医療機関

接種費用▶無料

麻しん・風しん

幼児



麻しんは感染力が強く、感染すると重症化する病気です。

対象▶次のいずれかに該当

①満1歳から2歳未満の幼児

②年長児

接種期限▶【①の場合】2歳の誕生日の前日まで

【②の場合】令和7年3月31日㊦

接種できる医療機関▶館林市邑楽郡医師会、太田市医師会、足利市医師会管内の個別接種実施医療機関

接種費用▶無料

子宮頸がん

女性



HPV(ヒトパピローマウイルス)の中には子宮頸がんをおこしやすい種類があり、HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。

対象▶次のいずれかに該当(対象者には予診票を送付)

①【定期接種】中学1年生から高校1年生の女性(平成20年4月2日~平成24年4月1日生まれ)

②【キャッチアップ接種】平成9年4月2日~平成20年4月1日生まれの女性

※平成19年4月2日以降の人は予診票の差し替えが必要。

接種期限▶【①の場合】16歳になる年度の年度末

【②の場合】令和7年3月31日㊦

接種できる医療機関▶館林市邑楽郡医師会、太田市医師会、足利市医師会管内の個別接種実施医療機関

接種費用▶無料

高齢者肺炎球菌

高齢者



高齢者肺炎球菌ワクチンの定期予防接種を実施します。

対象▶次のいずれかに該当

①満65歳の人(個別に通知書を発送)

②60歳以上65歳未満で心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障がいがある人

※①②に該当しても、既に肺炎球菌ワクチンの接種を受けたことがある人は対象外。

※令和6年度以降は65歳の間に接種を受けなければ、今後定期接種の対象者にはなりません。

接種できる医療機関▶館林市邑楽郡医師会、太田市医師会、足利市医師会管内の個別接種実施医療機関

接種費用▶2,000円(公費による補助は1人1回のみ)

必要書類▶事前に発送された通知書、健康保険証

日本脳炎(特例措置)

16~19歳



対象▶平成19年4月1日以前生まれの20歳未満の人

接種できる医療機関▶館林市邑楽郡医師会、太田市医師会、足利市医師会管内の個別接種実施医療機関

接種費用▶無料

風しん抗体検査は無料で受けられます!

風しんの定期接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性は、抗体保有率が他の世代に比べて低くなっています。まずは抗体検査を受けましょう

検査できる場所▶全国の医療機関

必要書類▶クーポン券、本人確認書類

※抗体検査で予防接種が必要と判断された場合は無料で受けられます。

(町ホームページ)



子宮頸がん(キャッチアップ)・風しん抗体検査が受けられるのは令和7年3月31日まで

次年度以降は助成が受けられません、年度内に忘れずに接種してください。

妊婦・産後サポート

妊娠前から出産後まで安心して子育てをしてもらうために町が行っているサポートを紹介します。

NEW

赤ちゃんの健康チェック 1カ月児健診

生後1カ月の乳児の健康状態を確認し、安心して子育てができるようにするため、乳児健康診査の助成を開始します。

対象▶令和6年4月1日以降生まれの乳児

健診時期▶生後1カ月頃

健診内容▶問診、計測、栄養状態の確認、診察、必要に応じて育児指導

助成額▶上限4,000円(1回限り)

※健診費用が上限を超えた場合は自己負担。

受診方法▶1カ月児健康診査問診票の表面太枠内と裏面を全て記入し、出産した医療機関などに提出のうえ、健診を受ける

その他▶保険診療外の健診費用が対象。健診項目の全てを実施していないと助成されません。受診票の再発行はできません。

利用料金が無料に！ 産後ケア事業

出産直後の不安や身体への負担を軽減するため、助産師による心身のケアや乳房ケア、休養などの支援を行っています。

対象▶町内に住所のある産後1年未満の産婦とその乳児のうち、家族などから十分な家事、育児などの援助が受けられない人で、次のいずれかに該当する人

- ①産後の身体機能に不安を持ち、保健指導が必要と認められる
- ②育児に対する不安が強く、保健指導が必要と認められる
- ③その他町長が特に支援を必要と認める

支援内容▶母乳相談、授乳指導、乳房ケア、沐浴指導など育児に関する相談、産婦が休養できる場の提供など

利用日数▶合計して7日間

利用可能施設▶下表のとおり

利用料金▶無料

申請方法▶保健センターに電話または直接申請する

産後ケア利用可能施設

県立小児医療センターの利用時間は保健センターにお問い合わせください

施設名	曜日	時間	対象月齢
公立館林厚生病院	㊸、㊹(毎週ではありません)	午前9時30分～午後5時30分	4カ月未満
鈴木助産院	㊸、㊹、㊺(祝日・年末年始を除く)	午前9時30分～午後4時30分	4カ月未満
なないろこどもクリニック	㊸、㊹	午前9時～午後5時	1歳未満
真中医院	㊸～㊺	午前9時30分～午後4時	3カ月未満



産後健診の期間を延長 産後1カ月健診

産後間もない時期の体と心の健康状態を確認し、安心して子育てができるようにするため、産婦健康診査の助成を開始します。

対象▶令和6年4月1日以降に出産する産婦

健診時期▶産後1カ月頃

健診内容▶問診、診察、体重・血圧測定、尿検査、こころの健康チェック

助成額▶上限5,000円(1回限り)

※健診費用が上限を超えた場合は自己負担。

受診方法▶産婦健康診査受診票の表面太枠内と裏面を全て記入し、出産した医療機関などに提出のうえ、健診を受ける

その他▶保険診療外の健診費用が対象。健診項目の全てを実施していないと助成されません。受診票の再発行はできません。

低所得世帯を支援 初回産科受診料助成

低所得世帯の妊婦が妊娠の診断を受けるために産科医療機関などを初回受診する際に必要な費用を助成します。

対象▶市販の妊娠検査薬で陽性を確認し、受診日時点で町に住居登録があって次のいずれかに該当する人

- ①町民税非課税世帯
- ②①と同等の所得水準であると町長が認める人

助成額▶上限10,000円(妊娠の診断に必要な診察・尿検査・必要に応じて超音波検査の診察)

※妊婦健診費用、保険診療費用は対象外。

※健診費用が上限を超えた場合は自己負担。

申請方法▶必要書類を持参して保健センターに申請する

必要書類▶世帯員の町民税非課税証明書(該当者のみ)

※受診後の申請は領収書、診療明細書、申請者名義の通帳、妊娠を確認できる書類(妊娠届出書や超音波検査の写真)が必要。

子育て世帯を 経済的に支援 出産・子育て応援給付金

妊産婦や子育て家庭の経済的な支援として出産・子育て応援給付金を地域通貨「コハクペイ」で支給します。

支給金額▶【出産応援ギフト】妊婦1人につき50,000円
【子育て応援ギフト】子ども1人につき50,000円

助成回数▶1回の妊娠期間中に1回

その他▶対象者には、適切な時期に案内通知を発送します。詳細は町ホームページで確認してください。



妊産婦・新生児訪問時 面談を行います

子育て家庭に寄り添った支援ができるように、30分程度の面談を行います。届出予定の日時を連絡した上で、届出の受付時間内にお越しください。

受付時間▶午前9時～11時
午後2時～4時

妊娠中の

口腔チェックが無料に 妊婦歯科健診

妊娠中は虫歯や歯周病になりやすい時期です。特に歯周病があると早産になりやすいと言われています。この機会に受診してみませんか。

対象▶町内在住の妊婦

内容▶問診、う歯や歯肉の状態の診察、歯科保健指導

受診回数▶1回の妊娠期間中に1回

受診方法▶受診票、母子健康手帳、健康保険証を持参して受診する

受診料▶無料(委託医療機関)

※委託医療機関外は対象外。

その他▶詳細は町ホームページで確認してください。



不妊治療などの 費用を一部助成 不妊治療・不育症治療

対象▶次の全てに該当する夫婦

- ①法律上の婚姻関係にある
- ②夫婦の一方または双方が1年以上町内に住所を有する
- ③町税の滞納がない
- ④医療保険各法における被保険者または被扶養者である

対象となる治療▶【不妊治療】医師が必要と認めた不妊治療で、診療・検査・投薬など

【不育症治療】医師が必要と認めた不育症治療で、診療・検査など

助成金額▶【不妊治療】医療保険適用外の費用で上限15万円

※他の公共団体で助成を受けている場合は、支給対象経費から該当助成額を除く。

【不育症治療】自己負担金額の2分の1の額で上限30万円

助成回数▶年度あたり1回(通算して5回まで)

申請方法▶保健センターへ来所

※必要書類は助成を受ける人の状況により異なります。

申請期限▶1回の治療が終了した日の属する年度の3月31日まで



いつでもどこでも

気軽に相談

邑楽町民なら無料で使える



心やからだのこと
妊娠・出産のこと
妊活のこと、子育てのこと、
更年期症状のこと、
仕事での悩み事など、
どんな些細なことも
相談ください。

登録手順

- ①下記QRでLINE友達追加
- ②クーポンコードを入力
※入力することで無料になります。
- ③LINEで無料相談が可能に



クーポンコード
ora 邑楽町大字〇〇

※「〇〇」にはお住いの大字名を入れる。

おうら町

子育て世代包括支援センター



妊娠・出産・子育ての
総合相談窓口

妊娠・出産の不安
思いがけない妊娠
母乳やミルクは足りている？
子どもの成長が気になる
子育ての孤独感
誰かに聞いて欲しい…

こんな悩みありませんか？
保健師が寄り添い、対応します

問合先
子育て世代包括支援センター
(保健センター内)
☎88-5533